

第1回JIA神奈川デザインアワード2017 「まちの楽しさ・面白さを考える」
この町の家によくある「柵付き窓」「物干しバルコニー」が互いに関係し連担するこの町の豊かさを、家の中にまで拡張することで新しい開放性とともによりに町に溶け込む住宅。



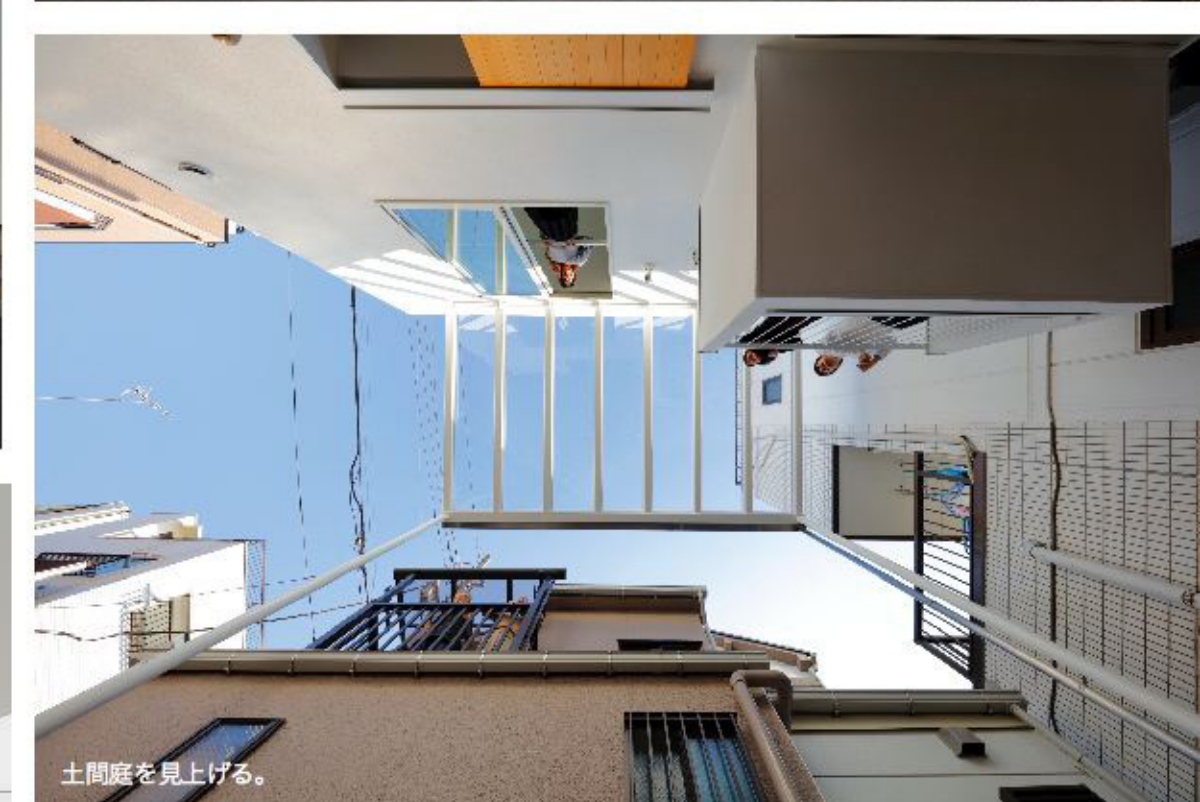
北側、前面道路から見た外観。左隣は叔父さんの家、奥の家はご主人の幼い頃からの友人。どちらも2階にバルコニーがあり土間庭を介して程よい距離感でお互いに見えている。



この家の物干しバルコニー

叔父さんの家の物干しバルコニー

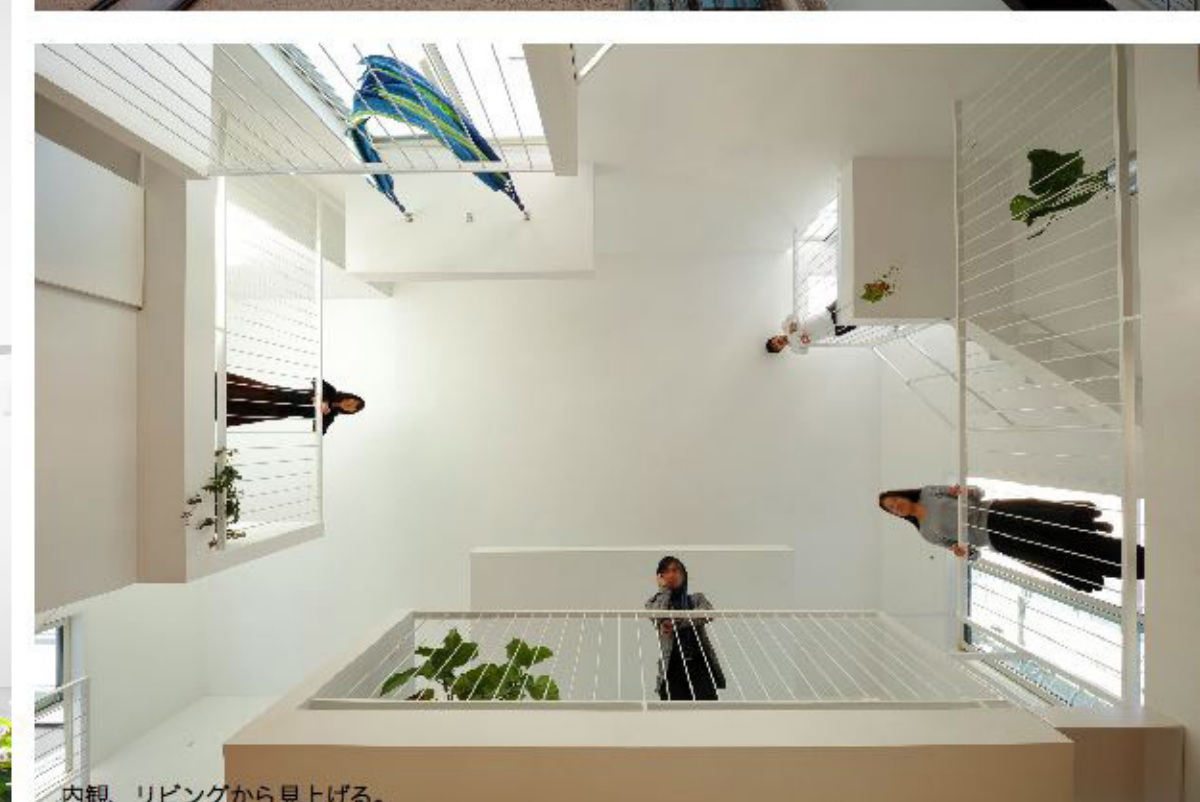
土間庭から道路側を見る。隣の叔父さんがバルコニーに出てくると声をかけあう。



土間庭を見上げる。



子供バルコニーから見た内観。左上はちよいとバルコニー、左下はゲストバルコニー、向こうはハンモックバルコニー、右上はベッドバルコニー。



内観、リビングから見上げる。



右はドレスバルコニー、その向こうに物干しバルコニー。



外観。奥の柵付き窓は「ちよいとバルコニー」の窓。隣家にも似たような柵付きの窓があり、道路を挟んで向かいあう。

窓辺のバルコニー Juliet House

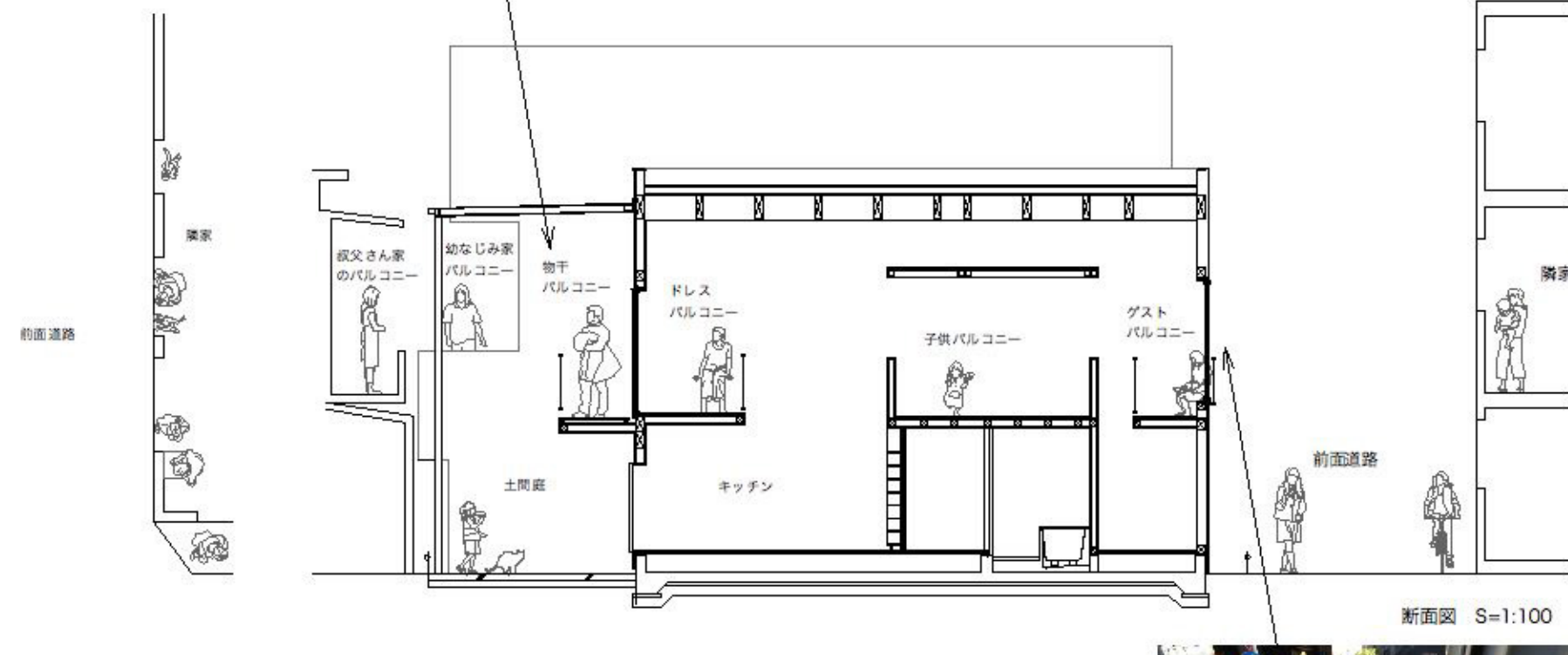
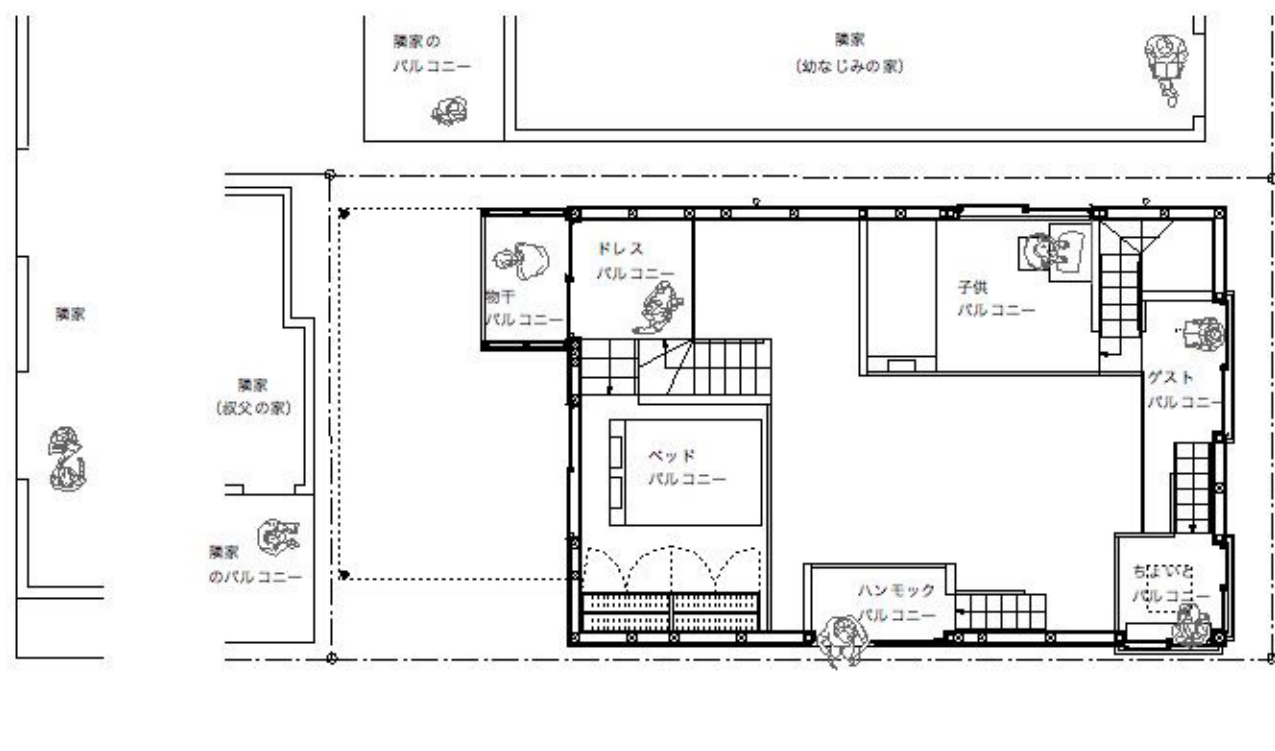
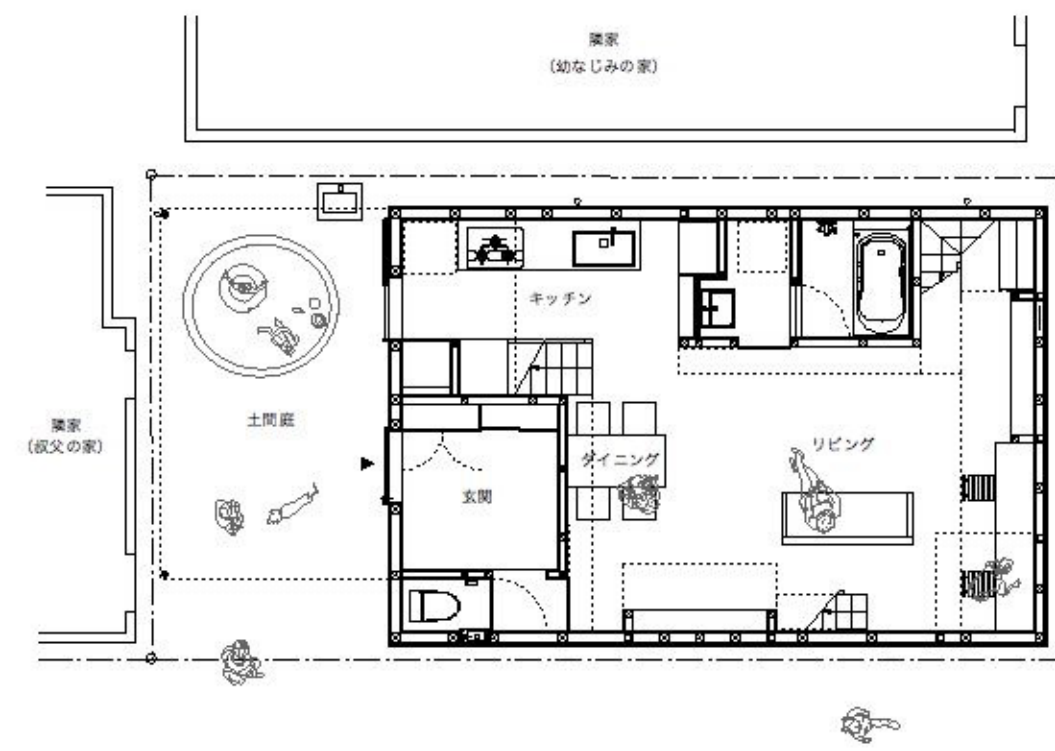
山谷に近い密集地に建つ夫婦と子供1人のための住宅。
近隣を見ると窓辺やバルコニーがどの家にもあり、まあまあ気持ち良さそうで町とのコミュニケーションの場・ツールにもなっていた。

そこで家全体を広々としたワンルームとし、4方に窓を設け、屋内外に大小のバルコニーを付けて生活の場とする計画を考えた。窓辺のバルコニーは、家の中ででありながら窓辺の気持ちよさがありプライバシーも守れつつ町とつながっている。窓辺の気持ちよさが家中外にひびく空間を、生活の場として使いはじめた。町を見おろすバルコニーからはお気に入りの人やお向かいさんに「ちょっとちょっと」と声をかける昔ながらのコミュニケーションが新しい形で受け継がれた。

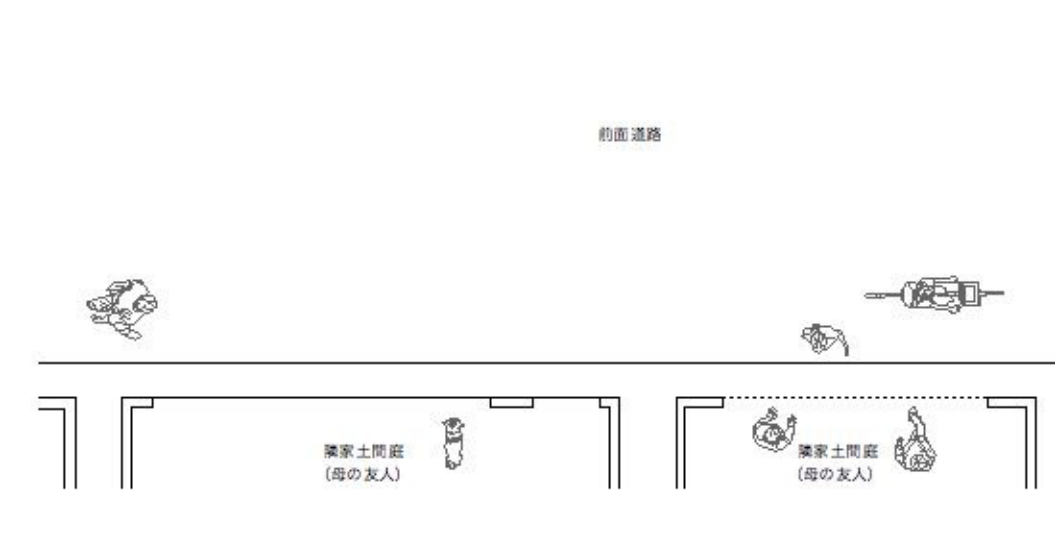
この町ならではの「まちの楽しさ・面白さを考える」ことから生まれた住宅である。



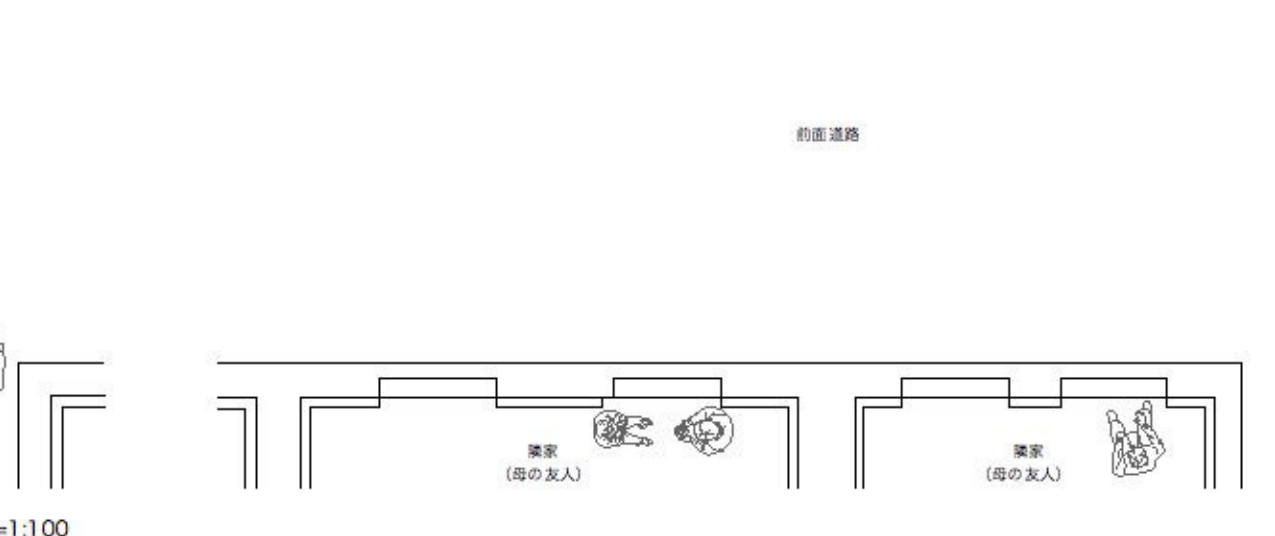
3つの家の物干しバルコニーが2階レベルで連担し、ゆるいコミュニティー空間を形成する。



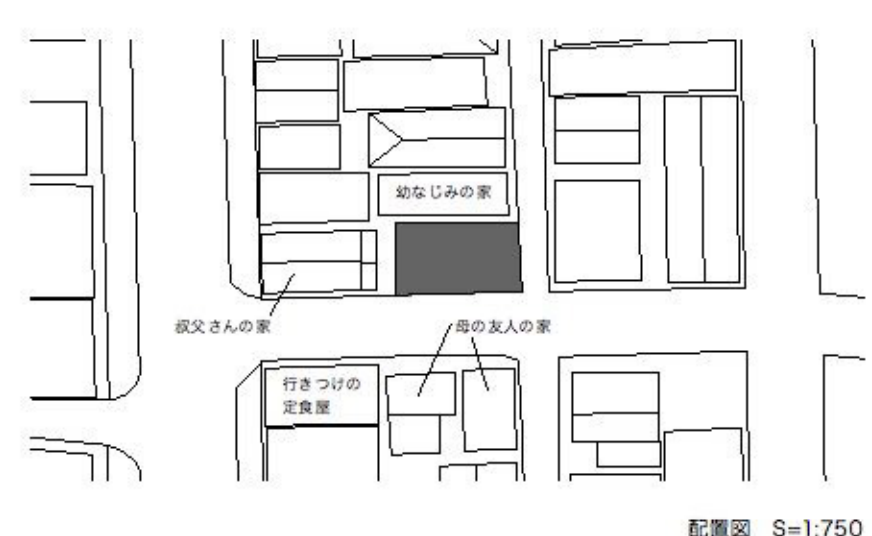
断面図 S=1:100



1階平面図 S=1:100



2階平面図 S=1:100



配膳図 S=1:750



柵付き窓から道路を見る。人やネコの様子が
見えて、お互いにさりげなく気配を感じる。

DATA
所在地 東京都台東区清川
用途 住宅
構造 木造
規模 2階建て
敷地面積 76.52m²
建築面積 48m²
延べ床面積 72.99m²
竣工 2016年12月